

風にWhistle

よこやりよこどり 2005/3/27 (日)

中田潤県議の議会便りが私のところにも置いてあった。自ら配って歩いているようだ。そのことが今日の地元会議でも話題になった。その議会便りの内容は産廃特措法の適用を受けた実施計画を協議し決定した者へのよこやりであり、人の話のよこどりだと批判と不信感を露骨に述べる住民が大半だった。

ご忠告したくなるほど地域の事情に土足で上がりこんでくる迷惑な人の代表格。福田雅男を能代に連れてきたのはそもそもあんたの父親じゃないか。



論拠は証拠から 2005/3/24 (木)

私だけが持っている**世界でたった一つの記録テープ**が、どうしてどうやって他人の手に渡ったのだろうと疑問を投げかけた。(2005/3/6・月)

早速、動いた議員がいた。私が信頼してダビングをお願いしていた電気店さんに「原田が一般質問でテープ渡しの犯人にしている」と、電話したらしい。

電気店さんは、「テープを渡したのは私でない。中田潤県議が証明してくれる」と、方々に釈明し歩いた。

間もなくして中田潤県議は、私の知人に「一般質問で原田悦子を取り上げた産廃のテープは 電気店さんから渡ってきたのではない。それが証拠に他に 4 本持っているから」と、わざわざ、この私に伝わるよう釈明に来た。しかし、どこから、どうやって入手したかは言わなかったので電気店さんを無実だと「証明」するにはいたらなかった。歯切れ悪く、少し上気したまま帰ったと言う。

私は、能代産廃問題に取り組んだ初っ端に、家の近くで放火があり、調査している能代警察署に呼ばれて怪我をする事件があった。業者へ出入りするにも人目をはばかりながら、私は、これまで写真やスライドの作成、テープをダビングしてもらっている業者名を一切他言無用、隠密にしてきた。快く協力してくれる人たちに迷惑をかけられないという、強い思いがそうさせた。

私の知人にも、テープをダビングしている電気店の業者名を、今、はじめて明かしたくらいだ。なのに、電気店さんをテープ渡しの犯人と決め付けて、直に某議員や、その日の議会傍聴人から電気店さん本人に電話があったとするのは、どうしてか。

なかなか厳格な先代から私は電気店さんを知っている。テープをダビングしてもらうには、かなりの難儀をかけていた。何分何秒のコマごとに編集してもらうこともあった。

一言も小言を言わず、私の希望をすべて受け入れてくれたおかげで私は、多くの人に能代産廃問題の記録を伝えることができた。

その労苦に対し、「料金を払ってダビングしてもらっていた。」とは、何たるや！ と、請求されるままテープ代とダビングの基本料金だけ支払っていただろう私の甘え方に、電気店さんから「あんなに協力したのにそれが金銭授受の商売行為だと言われ、拳句はテープを渡したと言われるのは心外だ。店の信用にかかわると社長が怒っている」と、抗議のお叱りを受けた。

だが、待てよ。

テープを渡した人と渡された人が陸に上がって、電気店さんを登場させて問題の矛先をすりかえられているんじゃない？ ってことに気がつかない？

だましあい

秋田県が能代産業廃棄物処理センターの環境対策に、国の財政支援を受けるためその計画書の同意を待つことになった暮れの 12 月 28 日に、私と保坂高道氏はお世話になっている Sa 氏へ挨拶に行った。

Sa 氏は、宮城県仙台市にある NPO 法人環境会議所東北山岡講子氏らと能代産廃センターに行った際、平川宏能代の産廃を考える会代表と偶然にも同伴した話をしながら、「12 月に入ってからと思うが、ひろしさんから中田満市議会議員の依頼で、千葉市原に行ったときのビデオテープがないか、在ったら貸してほしいと、テープの存在確認の電話があったが、『持っていない』と答えた」と、言った。

話の流れから私はこのとき「ひろしさん」は平川代表という認識でいた。

新しい歳の秋田県議会定例会議が始まった 2 月 22 日、中田潤が一般質問で能代産廃問題を取り上げ、千葉市原市に行ったときの録画テープがその質疑の素地となっていると、報道各社からの問い合わせがあった。

中田潤県議が県に提出したテープは、3 月 20 日と 4 月 16 日の、本来別々のテープが一本のダビングテープに収められているようだ。

「そんなはずはない」と私は言ったが念のため Sa 氏と、Yo 氏、平川代表に連絡を取った。

Sa 氏は、去年の 12 月始めごろと思うが、平成 4 年 3 月に同行した Sa ヒロ氏から「中田満市議会議員の依頼で、千葉市原に行ったときのビデオテープがないか、在ったら貸してほしいと、テープの存在確認の電話があった。自分は持ってなかったことから平川代表に

『どうしたらいいか』と尋ねたところ、『俺も持ってない、放っておけ』というので、『テープは原田悦子さんがすべて管理している』と、Sa ヒロ氏に返事した」と、折り返し連絡が入った。

間もなくして Yo 氏から、「もう、忘れていた。今頃、どうしてそんなテープが出回るのか。表面化して誰に何の利があるのか。」と、言った。

千葉市原市に行ったときの録画テープは、2 本あった。



一本目は、中田満氏の紹介でかつて能代産廃に廃棄物を搬入したことのある Sa ヒロ氏が、Sa 氏、Yo 氏を伴って、千葉市原市内にある中間処理施設までを道案内し、同施設内を写す平成 4 年 3 月 19 日から 20 日に撮った映像だった。

この 1 本目は平川代表が自宅でビデオカメラとテレビをつないでダビングした。

同行した Yo 氏と、平川、原田、保坂がダビングされたビデオテープで鑑賞し、千葉市原までの道を確認した。



ただし、このテープは個人情報特定されるなど公開するには問題があるとして「廃棄処分」を決めた記憶があったが、どのように処分したかわからないまま今日に至った。

二本目は平成 4 年 4 月 16 日から 17 日にかけて撮ったビデオテープだ。
某材木店から関東方面に荷物を配送する市内の運送会社の情報が入った。



私と、平川代表と、Yo 氏の 3 人は 1 本目のビデオテープで道案内を頭に刻み込んで、千葉市原市内にある中間処理施設を見下ろす高台に立って大型トラックの到着を先に待ち伏せしていた。

大型トラックがそこからドラム缶をつんで能代産廃処理

センターのゲートに入るまで一昼夜をかけて追そうする映像が 2 本目の録画テープだ。

2 本目は千葉から帰ってすぐに私が電気店でダビングしてもらったもので、マスターテープと一緒に私の手元から動いてない。



車は高速道路から飯坂、米沢方面出口へ（H4/4/16 午後 7 時 31 分）

平川代表から話を聞く機会があった。こう言った。

「日時は思い出せないが今年 1 月に入ってから、中田満が直接家に来て『仙台の NPO 法人環境会議所東北山岡講子氏から環境フォーラムに使いたいという申し入れがあったので、千葉市原に行ったときのビデオテープがないか』と、言われた。

以前に山岡氏とは産廃センターの視察で面識があり、オメえ（原田）を紹介する約束を実現していないこともあり、家に在るビデオテープを探したその中に千葉市原に行ったときのビデオテープがあった。テープを再生し最後の映像を確認してから中田満に渡した。千葉市原までの道案内する最初 1 本目のダビングテープで、二本目の三人で追っかけした映像はなかった。4 月に三人で行った時のテープはそのままオメえ（原田）が行き付けの電気店に持って行ったべ。

中田潤の一般質問を新聞で読んだ。おかしいと思ったので中田満に『テープはどうした？』と電話した。『弟に貸した』と言ったので満にテープを返せと怒った。家まで来て『悪かった』と土下座するように謝まっていたがテープは持って来なかった。産廃の中身の問題を何も知らない兄弟に貸したテープではないと、怒り心頭に満を追い返した。

今度は、市議会議員がきた。今まで産廃に関心をもたかった人が質問して取り上げるには無理でねえかと、断った。」

2 月 9 日、能代市主催（商工観光港湾課）で環境フォーラムを開催、3 月 3 日には環境フォーラムパート 2 が開催されているが、この両環境フォーラムで、中田満市議が平川代表から借りたビデオテープを参考にした意見交換はなかった。

私は平川代表に、千葉市原に行ったときのビデオテープは、二本を一本に編集してダビングされていることを話した。「2 台のビデオデッキがなければできない。それは専門家でないとできねえ技だ」と、言った。

3 月 21 日、私の目の前で平川代表は中田満市議に携帯電話した。何回かけ直したが中田満は電話に出なかった。

平川代表は市内で開催した の会議終了後に中田満市議に電話した。テープの返還を求めるため、秋田から帰宅した中田満市議の自宅へ行った。「借りたテープはこの自宅には置いていない」と言うのでこの日の持ち帰りはできなかった。

3 月 22 日、平川代表は「午前中にテープを持って息子が来た。中田満のいる場で、返すテープが貸したテープと同一であるかどうか確認しなければならない。テープを目的外に使うばかりか、無礼をわびることもない。潤が県に提出しているテープのコマの中の 4 月 16 日の部分は、オメえ（原田）が持っている以外にないのだから、ダビングした電気店がやったとしかおもえない。」と、言った。

3 月 23 日、懇談会の席で一人ぼつんと座っていた中田満議員に私は言ってやった。「昨

日の夜、平川代表が中田さんの自宅まで行ったんだってね。ダビングしたテープの話し、ゼーンぶ聞いたわよ」

中田議員「ああ そうだあ」蚊の泣くような声を出してその席から立ち去って行った。

中田満市議の POKER FACE は、決まって事実を認めているときの顔だ。

確かに、私が信頼してきた電気店さんは中田潤県議に直接テープを渡していない。が、間接関与の疑いを拭い去ることはできない。

中田潤県議にダビングしたテープを渡したのは、平川代表を騙してテープを借りた兄中田満市議であることは明白。

電気店さんに中田満市議の依頼があったのだろう。私だけが持っている世界でたった一つの記録テープの千葉市原 2 本目が、千葉市原とは関係のない部分を除外して編集し、千葉市原 1 本目のテープに続編でダビングした凄腕の電気店さんがいるということである。

公職にある中田兄弟がしでかした、こうした人を騙し無断で目的外にテープを使用し、流出したことに問題がある。

善良な電気店を前面に出して利用し、私とトラぶらせて口を拭う。私が問題の矛先をすりかえられようとしていると指摘するのはこのことだ。

電気店さんは、ビデオカメラにもダビングにも自店が係っていないと否定した。だけど、中田潤県議が差し出したテープをコマごとに分析した県環境整備課の資料を見せると、「以前にこの写真と同じものをビデオで見たことがある」と言っていた。

電気店さんは、一部始終を知って、誰かをかばっているように見えた。そして「俺じゃない。みんな、グルになっているんだ!」と言って、帰った。

誰が誰と、どういうグルになって、だまされて、だましうちにあっているのか。まわりが、偽善者中田兄弟の術中にはめられようとしている。

笑いものに終わったとさ 2005/3/18 (金)

2005/2/22 (火) 付けでこの兄弟、何をしたいのか、言いたいのかわからないでも言わせてもらったが、県議会議員としては、格調のない実に薄っぺらな一般質問の内容だったのに、



またまた懲りずに、中田潤は初公開とばかり兄満から入手したビデオをかざして、能代産廃問題に係る総括質疑をしたようだ。

中田潤県議と、同僚瀬田川県議の質問を傍聴していた者から「いまさら知ったかぶりして」と、失笑と、大恥をかっていたという話を聞いた。どうやら当局答弁に一蹴されたいらしい。

ビデオの提出を受けた秋田県は、中田県議が指摘している IC チップ洗浄液など処分場に直接垂れ流されたとされる場所がピンポイントで判明し、処分場調

査をより効果的に実施できること、あるいは、排出者の責任も追及できる証拠になると期待してビデオを確認したようだ。

ところが、能代産廃センターが移っている映像は、ゲート付近が移っているだけで、中田県議が指摘する処分場に液状物が捨てたとされる事実を確認できなかった。廃棄物の排出元を確認するために撮影したビデオであり、すでに住民団体との協議の場で、同じビデオや写真の提供があって確認済みのものである。と、答弁したようだ。

初公開とばかり兄満から入手したビデオをかざして「やっつけてやろう」と意気込みはよかったが、逆に笑いものになって終わったと聞いた。

今更になって、なぜにこれほど中田兄弟は能代産廃に執着するのだろうか。何時か中田満はこういった。「会社の能代港の仕事も終わったし、儲かったし、今度は能代産廃でもやるか！」って。

中田潤県議のホームページを見ればよくわかるが、中田兄弟こそ私利私欲会社存続のためのただの偽善者だ。

地震と津波は忘れた頃にやってくる。大館のイトウが倒産してもう、5年くらいになる？「中田家一族」が中田建設の会社役員に名を連ねていないと言う。これは、万が一の責任逃れになる会社整理の準備に入ったのだとまことしやかにささやく人もいる。本業では会社経営が行き届かなくなって、いまや介護事業やら農業やらに手を出す会社社長がたくさんいる。昔から仕事がほしくて議員に転職する土建や社長がいるって言うじゃない！

そうなのかな？ 私にはよくわからないが。

無知は「どろぼう猫にも劣る」だねえ 2005/3/15（木）

議員の自覚を持っているなら、インターネットと言えども事実には反することは、書きなぐってはいけない。

建設委員会が「学級崩壊」し、壊れたまま任期を終えたといってるが、君がその委員の一人で、3月定例会建設委員会は今日終了したが、委員任期はまだ終わっていないのだ。産廃センターの処理水を市の終末処理場で受け入れしていることについて議論途中に口を挟み、セクション違いだからいい加減にしたらと言ったのは君だ。委員長は、審議するセクションは、ここ、建設委員会ですよと、教えてあげた。人から教えられたり、注意されたりは、「私がなんでも一番」と言う君の逆鱗に触れる。と、相手を逆襲するパターンのくりかえし。

「学級崩壊」の真意を尋ね説明を求めた委員に対し、「私が思っているからそう書いただけ」と答え、逆に「その言葉の一字一句をインターネットに載せるから」とメモを取り、まるで恫喝しているかのような言葉を残してハイテンションで部屋を去った。

早速、君の伝言版には「傍聴人」なる人が登場したけど、あれって、ハンドルネームを変えて君が書いていることぐらい、皆、わかっていること。

実に無責任なことだ。議長に言いつけて議決しようなんて誰も言ってない！

能代市議会が誤解されるようなことをやっているのは、いつも君が常習犯になっているじゃない！ 中傷誹謗は日常茶飯事。事実でなかったり、嘘ついたり。そんな君を馬鹿らしくて相手にするのはやめた、が皆の本音。

給料をもらって職場の中傷誹謗に明け暮れし、ろくな仕事をしない。世の常にあまりにも無知だば、どろぼう猫にも劣ると批判する人の声には戸が立てられない。

予算可決で一步前進する 2005/3/9（木）

能代産業廃棄物処理センターの環境対策事業に未設置部分の遮水壁設置など汚水拡散防止対策などに着手する 5 億 171 万 3 千円を確保した平成 17 年度当初予算、残り少なくなった今年度の 2 月定例補正予算に 7,850 万円は、いずれも、秋田県議会の議決を得た。

産廃特措法の適用を受けた実施計画に基づく遮水壁設置、水処理施設改良等の詳細設計、埋め立て廃棄物の非破壊調査を実施することになる。

ペラペラ喋りの PERFORMANCE 2005/3/7（火）

いろいろな立場の人たちが能代産廃問題に関心を持ってくださることはありがたく受け止めている。特に能代産廃が倒産し、国の支援で環境対策を図ろうとしてからは、これまで関心を引かなかった人たちが一転して不法投棄の原状回復を訴えるようになって来た。産廃馬鹿と言って悪口批判していた人がコピー運動を繰り広げ、間違った情報を発信している。自分を「万能感」から錯覚していけないと、ご忠告したくなるほど地域の事情に土足で上がりこんでくる迷惑な人もいる。

「能代産業廃棄物処理センターに係る特定支障除去等事業実施計画」に対する県議会における中田潤が一般質問で触れられた市長発言がある。

「県は今回の事業実施計画について、能代市や地域住民からの、同意を得たと言っておりますが、確かにそれは事実と言えば、事実になるかもしれませんが、『能代市長』の言葉をそのまま言わせてもらえれば、県側から示された事業計画が、一番最適な手法だと説明を受け、自分も専門家ではないので、反論はできなかったし、ただ同意し、県が進めることにしたがっておけば、旧能代産廃処分場に対し、県は将来とも責任を撮らざるを得なくなるだろうと言う計算が働いたからだ」と。これが真相であり、必ずしも今回の事業計画に対し、心底理解しての同意ではないことを、付け加えておきたいのです」

これは市長が事業実施計画に同意したことが不本意である旨を中田潤に発言していることになる。市長発言が事実だとしたら、平成 16 年 10 月 12 日付け能代市環境審議会の意見を市の意見として県に回答したのは一体何だったのか。地元住民の人たちと心理的なギャップができていくことへの現れであり、浅内の痛み、苦しみを共有していない、住民と行政に浅内の環境再生に溝をつくることになる。

市長は困った顔して下を向いたり天を仰いだり、赤くなったり真っ青になったり。私は、市長に発言の事実確認をあえて求めなかった。中田満と潤兄弟のペラペラ喋りが、市長の

立場をさらに追いつめている。

糠床に釘 2005/3/6（月）

能代山本市町村合併協議会解散後の一般質問ができる本会議である。私は、「豊沢市長を誕生させた責任があると市民の皆様と言われると、私もこういう質問をせざるを得ないわけで」と、影の市長といわれる中田満氏の顔を見ながら切り出した。

「ちえっ、当選させたのは俺だい！」顔いっぱい歪ませていた。

私は、「豊沢市長の合併への策なし、論なし、力なしで7市町村合併は混迷・迷走し、崩壊した。市長はこの姿勢混乱及び姿勢に対する市民の信頼を損ねた政治責任のけじめを、どのように考えるか」と、質した。

案の定。7市町村による合併協議会からの離脱は市民の意向や市議会との協議の場を得た対応だとし、「冠発言から住民運動などいろいろな経緯の中で責任はあると考えているが、市長のけじめは、3月31日まで二ツ井町と合併を成就させること」と、答弁した。

すかさず、「7市町村による合併協議会崩壊の責任を質している。二ツ井町との合併に政治生命の命つなぎをしているのか」と追求したが、典型的無責任豊沢答弁は変わらず。

まわりから「ぬかにくぎだ！」という声がかかる。

世界でたった一つの記録テープ 2005/3/6（月）

能代産廃問題の記録は、約5000枚を超える写真と20本のビデオテープに収めてある。私は録画したマスターテープは、必ず市内にある電気店で料金を払ってダビングしてもらっていた。マスターテープもダビングしたテープも私の手元にあるのに、どうやって、どうしてダビングしたテープを私以外の他人が持っていられるのだろうか？

私だけが持っている世界でたった一つの記録テープなのに。



「事業開始当時に県外廃棄物を搬入した」証言を基に、実際に廃棄物の排出元を確認するため、千葉県市原市内にある中間処理施設からドラム缶を搬送するトラックが、産廃センターのゲートに到着するまで一昼夜かけて後を追う。

（平成4年4月16日ビデオ撮影）

はやりの客が来た 2005/3/6（日）

とうとう我が家にも「はやり」の迷惑客が来た。予防注射の効果よりインフルエンザ風邪が勝った。39度台の高熱に見まわれて次々、つぎと病院へいった。熱を冷ます「氷嚢」や「氷枕」は、今時の若い人は使わないらしい。新兵器はおでこに張るヒヤリシートになっていた。

昔のことを思い出すのは歳を取った証拠だと笑われるが、私の子供の頃を思い出した。貧乏だった私の家では風邪を引いて医者から見てもらうのは大変なことだった。母に「薬っこ、ちゃんと飲めや」と言われたが、少し元気になった私は障子の裏にそっと妹を呼び出して母がやっと手に入れた苦い薬を身変わりに飲ませた。私は怒った父に抱きかかえられて窓から雪の外へ放り出されてしまった。風邪にかかったのは私なのに家の中では病氣した人だけが食べられるりんごを妹と兄がおいしそうに食べていた。私にはりんごの皮だけ残っていた。ひとしきり「ごんぼ」ほって泣いた後、母がそっと 4 分の一のりんごの身をくれた。美味しかった。

3 月になると、平成 4 年 3 月 10 日を思い出す 2005/3/4 (金)

「本日、事件はなかった。原田悦子は能代警察署に来なかった。」

平成 4 年 3 月 10 日、柳町のある料亭で能代警察署副署長が発令した箝口令である。能代警察署と秋田県警に「忘れもしないあの日の出来事」は、能代産廃問題を追求する素地となった。

能代産廃問題が解決したわけではないがある程度方向性が見えてきた今だからこそ、能代警察署で起きたあの忌まわしい事件を、沈黙からやっと世間に打ち明けられる「時」が来た。

いままで能代警察署と秋田県警は、私が物を言わないことをいいことに、「たいしたことではない」と、これまで高をくくってきたかもしれないが、それでも内々で「能代警察署の不祥事」は署員に引き継がれて語られているようだった。事実を伝えることは関係周辺を震撼させることにもなるだろう。それだけ能代産廃問題は根が深いことを知ってもらいたい。公開準備中。

7 市町村だからこそ合併に○を印した 2005/3/2 (水)

能代市議会 3 月議会の始まった今日の午後 2 時から、能代市と二ツ井町が結婚できるかどうか、明日、第一回全員協議会で協議することになる協議項目の一部などの説明があった。この子達に雪だるま式に増える借金だけは残したくないと思うが、合併の特例債とはおいしくもあるが、結果的には借金だ。なんたって、この 3 月 31 日までには決めなきゃならない時限がある。

私の周りからは、7 市町村だからこそ合併に○を印したが、二ツ井町となら合併しないで単独でがんばってほしいという声が聞こえる。

突然の悲報悲劇 2005/2/27 (日)

FAX が入って、突然の悲報に、驚いた。友人が亡くなったことを知った。2 月 1 日の華年同級会を 20 年振りに元気に祝ったばかりだった。木材会社を経営し、「こうしてあるのも、

奥さんのおかげ、両親のおかげ」と、感謝の心をととても大事に話していた。合掌。

また一方でテレビには、岐阜で福祉施設で働く人が起こした 5 人の家族の殺傷事件が報じられていた。何がどうあったのだろうか分からないが、人それぞれの事情があって生きている。

この 2 月には、介護士を目指した若い青年が起こした事件もあった。「痴呆」を「認知症」に置き換えて言葉として聞きやすいが、それを介護に抱えている家族は人に言うに言えない大変な苦労がある。

矛盾 2005/2/23 (水)

能代市は、二ツ井町と合併できるのだろうか。合併協議会設置が決まった。表向きの体裁を整えたと言う感じもするが、何度も対峙してきた能代市と二ツ井町が、互譲の精神をもって協議することで再開に合意した。「合併」は話し合いの場になる「合併協議会」がつき物条件となってその是非を議論する。

私にとっては二ツ井町との合併は大きな不信感を残したままだが、協議会が立ち上がり、話し合わなければ合併できるかどうか分からない。話し合って「やはり乗れない」と、決することにもなるかもしれないが、合併協議会は合併の是非を議論する必須条件だから設置に賛成した。

「二ツ井町との合併には原則として賛成だが、合併協議会を設置するのは反対だ」と、反対討論なのか持論の意見なのか延々述べる泡沫一固体がいた。当然議長は、質疑は整理して簡潔にとイエローカードを出した。合併協議会を設置しなければ、合併の是非について協議ができないということがわかっていない。そこにいた議員は「いろいろ御託ならべて結局は合併に反対だったべ」と、矛盾を突いていた。

この兄弟、何をしたいのか、言いたいのか分からない 2005/2/22 (火)

中田満市議の弟、潤県議会議員が一般質問をした。12 月議会の総括質疑の延長戦で、能代産廃問題を取り上げていた。

情報をたくさん集めたまではいいが、自分が苦労して汗流したものでないから質問の内容は推測だらけの転々ばらばらで何を言いたいのか、聞き出したいのか分からない。誠に無知である。しかし、あらゆることを知っているつもりでいる。自分自身が理解できないことを議会で質問して説明している。情報は量より質だ。こんな議事録を永久に保存されただんでは、地元は迷惑至極に至る。

かつて、兄の中田満議員から私は、「能代産廃は、難しくて俺にはわからん。資料を全部上げる」と、目を通したかどうか分からない能代産廃に関わる資料を結婚式で使う大袋でどーんといいただいたことがある。能代市議会も秋田県議会も議会議員は一致結束弁当箱にして能代産廃問題は禁句だった。これも両議会の不作為である。

能代産廃の歴史の評価を、当時に責任を持たなかったにわか政治家がすべきではない。

中田兄弟はただの七光りなのに自分を「万能感」から錯角している。

昼夜逆転介護の実態 2005/2/22(火)

18日、滞在先に母を訪ねた。ご機嫌モード「斜め」のとき、孫は忘れないが娘は忘れる。21日、「ただいまぁ！」と、手を振って家に帰ってきた母はこれまたご機嫌モード「最高潮」にパワーアップしていた。歌を歌い、人と交わすご挨拶にも愛嬌たっぷりだ。

温泉に行って体操場のような大きい風呂に入ると自慢しながら、どぶろくの話をはじめた。「おいしく造っては、酒調べに来た税務署員に見つかり、一番金がない盆ころに罰金を払わされた。おいしいどぶろくは、税務署の人が飲んでいたのは悔しかったなぁ」。

それでも懲りずにどぶろくを造っては見つかったと言って笑っていた。麴と米の割合はこんでなぁ、米は種籾で残したいいい米がうめえどぶろくになると、手振り、身振りよろしく話し込んで楽しくすごした。今晚はかなり疲れてこれでゆっくり私も眠れることを期待して「おやすみ」と、言ったのだがそうはいかなかった。テンション高くなりすぎて1時間ごとに「誰がいねがぁ、おめ誰れだ？ 何が食べてえ、おしっこに行きてえ、」と、♪～リラの花咲くシンガポール♪～文明開化のヨーロッパ♪と軍歌を手拍子で歌って朝まで続いた。そして眠りに入った。昼夜逆転の介護の実態が我が家のここにもある。

合併と不信感を秤にかけて 2005/2/17(火)

どうも解せない。

豊沢能代市長はひれ伏しているのかそうさせられているのか。片や腕を組んで人を下げ荒んだ目で腕を組んで「待ち受ける」二ツ井丸岡町長。この構図がこの人の術中にはまりたくないという強い私の思いとなって、合併より不信感だけを増幅させている。合併協議の時間はないが、冷静に判断をしなければならない。

初めての「お泊り」 2005/2/14(火)

子供たちが小学校に入学して以来のことで、ずいぶん久しぶりに、持ち物に名前を書く経験をしている。修学旅行のように身支度をしてもらった母が、初めて6泊7日の「お泊り会」に出かけた。孫に手を引かれていくその後姿に、「自分もいつか行く道」を重ねて見送った。夜、「どうしているべが」と、親離れしていない自分に気付きながらも、初めて家族に休息ができたことで介護制度の受け入れを実感した。今晚はゆっくり体を休めることにしよう。

命がけの結婚探し 2005/2/8(火)

豊沢市長は、追って、追われて結婚探しに奔走している。1月31日、二ツ井丸岡町長に朱肉付きの結婚申し込みをしてくれと言われて、臨時議会もそこそこに二ツ井町に出かけた豊沢市長であった。南部3町にも結婚を申し込まれていた二ツ井丸岡町長は、その数時

間後、琴丘町、山本町、八竜町に「破談にしてくれ」と回った。その帰り道、能代市に立ち寄り「独身でいたいから」と、結婚を断ってきた。

「朱肉付きの結婚申込み書」は、とにかく手練主管な二ツ井丸岡町長に南部3町の結婚お断りの理由に利用されて旨くしてやられてしまった格好だ。「結婚するには、時間がないから独身でいたい」ではあまりにも見え透いた言い訳で、その場逃れの詭弁に過ぎないと、思うがいかが？

案の定、一週間もしないうちに二ツ井丸岡町長から「独身で行くには、将来設計が描けない財政難に気がついた。結婚したいけれど、いまさら自分から言い出すのは都合が悪い。もう一回、そちらから結婚を申し込んでもらえんだろうか。三顧の礼を尽くされて信頼を回復したと言うことになれば、ご親戚議会も許してくれるとおもう。結婚したい」となった。それに乗って乗せられた豊沢市長は、待ってましたとばかりいそいそと、婿さんになってほしいと仲人を立てて頭を下げに行った。合併に政治生命をかけると明言した豊沢市長である。どちらも命がけで追って、追われて結婚探しに奔走している。

ここに、豊沢第二市長と言われる議員が大芝居をうって大根役者を演じていると知っておもわず笑ってしまった。

拝啓 豊沢有兄市長 殿 2005/2/4(木)

いよいよ春だというのに、浮かないご心中お察しいたします。

市長を一番憂鬱にさせているのは、ご自身の公約「市町村合併解散」でしょう。

お互いに不信感を引きずったまま、7市町村の間にギクシャクだけを残した豊沢市長は能代市史に不死鳥ならぬ負市長で残るとはこれまた残念！

7市町村の合併が成就できなかった混迷、迷走の責任が問われるのは当然でしょうが、ここは一つ、すぐに「市長は首だ」と言われても、「任期途中の首切り選挙は金が掛かります」と、何とか乗り切って辛抱してください。

でも、ここ数日の天気は、前途多難を象徴しているかのごとく、厳しい寒いお天気でしたね。

危惧

六つの十と一と 2005/2/2(火)

生まれ変わる日が来た記念の同級会は、それはもう、楽しく懐かしくすごしました。

2月1日の前日から、友人が集まった。三回目の成人式を迎えた日は翌日の朝までおしゃべりして、飲んで、笑って。それでも足りなくて今日は、近場の温泉めぐりとなって、出かけた。夕方6時になって「しばらく！やっぱり悦ちゃんだ！」。高校時代の友人が集まってまた我が家は今晚もにぎやかになった。県スポーツ賞の功労賞に選ばれた水泳部コーチの話題になった。練習がいやになって、コーチのピンク色の水泳パンツをデレキで掴んで更衣室のストーブに入れて燃やした。それが今でも話題になってしまう。先生、ごめ

んなさい。

私が見る豊沢氏は意固地である 2005/1/31（月）

7市町村それぞれの議会は、能代山本合併協議会の廃止を議決した。これから3月10日をめどに淡々と廃止の事務手続きが行われるだろうが、信頼回復は未達成のまま、一度過ぎ去った心的状態は、まったく同じ状態では決して再生起しないこの虚しさはいつまで続くのだろうか。

私は、今以って合併に対する豊沢市長の取り組み方に残念で、無念で、それでも悔しくてならないのである。

市町村合併・新市の名称で、「冠」発言に反対論が渦巻く中で6首長同志の合意であるの一点突破で批判を押しつけ突き進んできた。強硬姿勢を崩さない市長が「独走」することへの強い懸念を、もっと早く市民の声に譲歩すべきだった。

人の提言など聴く耳を持たない豊沢市長に、それを「ぶれない市長」だと、評価していた。まわりに目を凝らすことなく突き進むと、気付いた時には、もう取り返しがつかないことになりかねないのに、「こうと決めたら、ぶれることを極度に嫌う。ぶれないことは強さでもある」と、豊沢支持のエールを送った人も多い。

ところが、ぶれないことは、危なっかしさと紙一重でもあることに、気付かなかった。豊沢氏は、いつも誰かに何かを言われる度に「ぶれていた」のだ。

私が見る豊沢氏は意固地である。政策に、信念のない意固地と、生まれついて育った子供のままの意固地とはちがう。豊沢氏は、両方を持ち合わせている。どうしようもないやつだったんだ。

豊沢市長の迷走は、今に始まったことではない。

豊沢氏は能代産廃問題を解決するといって選挙で闘って勝ったが、実は能代産廃の何が問題なのか知らなかった。それなのに知らないと言わないで外においては私を批判し、右を見ては能代市長になり、左を見ては能代産廃の係争中の被告となり使い分けした。おかげで私は、煮え湯を飲まされた思いを味わって、ストレスがたまり積もって病気になった。皆を困らせてようやく裁判を和解にこぎつけた経緯である。

加えてこの1月は、能代市の公共工事の入札に関わる不祥事が明らかになった。14年6月11日消印はがきに、暗にそれを臭わせる告発があったことを思い出す。ワープロでわざとらしく間違えている文字が、ふざけているとそのままにしていた。「様」だけは自筆のようだった。

久しぶりの映画 北の零年 2005/1/29（土）

日本映画史上最高の感動大作、誕生！！につられて、映画「北の零年」を観た。明治初期の北海道を舞台に、人踏未踏の原野と戦いながら開拓に取り組み、数々の苦難を乗り越え、生きていく人々の物語である。

人は予期せぬ出来事に挫折する。信念をもつこと、生きることの大切さをもって、それは克服できる。まさしく、零からの出発にすれば重い気持ちも楽になれると、思った。

文化会館は映画館でないからかな？ 映像がちょっとばかり悪かった気がした。

動かずばすなわち三たび思い、慮りて後に行く 2005/1/28（金）

あわわ、あややである。不信感を引きずったまま、能代山本合併協議会は第 15 回開催地山本町において解散（廃止）した。

能代が批判の槍玉に上げられる格好となっているが、こうなってしまった最大の原因は、最初に、合併の是非を含め全体について十分に検討、協議しなかったところにある。

市長はじめ 6 町村長は、「冠を捨てる」行動を起こす前には、その行動について、慎重な検討が必要だった。

事前に、慎重な検討を怠ると、ことを始めてから「こんなはずではなかった」ということになる。

歴史学者の陳寿は、「三国志」のなかでこう言っていた。「動かずばすなわち三たび思い、慮りて後に行く」と。

じつに勝手な！ 2005/1/25（火）

上にも下にも「能代」がくっついている代替案は認めないと言って譲らなかった 6 首長たちが、能代市が『能代山本市』を提案してくれれば、何とか合併仲間に入れてあげようとしたのにと異口同音に言う。

そして、八森町と峰浜村が合併し、二ツ井町、山本町、八竜町、琴丘町の 4 町合併推進の方向へと急展開となりそう。能代が単独立市か。

ちょっと待てよ。能代市に八森町、峰浜村、二ツ井町、藤里町が入って北部 1 市 3 町 1 村という。山本町、八竜町、琴丘町を南部 3 町という。この枠組みが壊れたら、これもまた大変だと思うんだけどな。

総額約 26 億円で環境保全対策 2005/1/21（金）

秋田県が申請していた旧能代産業廃棄物処理センターの産業廃棄物特別措置法の適用が、決定したと、知らせが入った。

環境対策事業計画に環境大臣が同意したもので、今後 9 年間、国の財政支援を受け総額約 26 億円で環境保全に当たるものである。

知事のメッセージを持った秋田県環境対策班の班長たちと正午、市役所内で会った。班長の安堵した表情に「難儀をかけた」と心から労をねぎらった。

破産した処分場の維持管理、環境対策の一つのモデルを示したものとは考える。しかし、これですべて解決したわけでもなく、これからの取り組みに貴重な教訓になったことを活かしてほしいと願った。

環境大臣が同意し、産業廃棄物特別措置法の適用が決定されるまで、時計の針を止めていた私のホームページは、いよいよ解禁である。

市長 気迫が消え 視線が泳ぐ 2005/1/21（金）

打開案の新市名称を再び持ってこいと言った 6 町村長に、否定されても「能代山本市」を提案すると言っていた市長は、土壇場になって、市長は 6 町村長に向かって魔球で投げ返した。

さまざまな意見があった。「能代市」で行くべし。「能代山本市」で市長をフリーハンドで行かせたい。あらためて意向調査を実施すること。それでは時間がないから住民投票で。等などのその意見は、それぞれ理由があって真剣に合併を考えている立場での積極的議論であると受け止めている。

「能代市」で行くべしと主張していた議員の中から、もう一度、平場で新市の名称に枠をはめない公募ではどうか、譲歩してきた。

一方、市長提案「能代山本市」が、絶対に“数”の論理で可決に自信を持っている議員がいた。“数”を読み間違えているにもかかわらずにである。数に負ければ市長提案は否決である。「否決」という自体だけは避けなければならないとしたが、その議員たちは頑として受け入れなかった。

「明日の新聞に態度表明した議員の名前が掲載されるから」という。

結局、市長は 6 町村長に「能代山本市」を持っていくことをやめて、「公募する」を回答にした。

市町村合併特別委員会の決定は、市長を拘束するものは何もない。議会の意思を尊重してこのような提案をしていると言うことを前面にしているようだが、市長提案の「能代山本市」と、議会の決定を調整した、もっと幅を持った方法があったのではないか。

またしても、今回の転換で、市長としてのアイデンティティ（自己認識）を、一瞬にして放棄してしまったと、私には映る。

市長の合併への気迫が消え、視線が泳いでいた。

その足で、市長は 6 町村長が待つ合併協正副会長会議に向かったのである。

背中に「混迷、迷走はさらに深く続く」と、背負って。

「能代山本市」を否定されればそれはそれで良し 2005/1/20（木）

6 町村長を訪ね歩いた豊沢能代市長は、新市の名称の妥協案として、20 日、市議会各会派の懇談会で「能代山本市」を提案してきた。それは単に 18 日に協議会から要請されたペーパーに対する能代市長の義務的行為でやっていると受け止められる内容だった。

そのペーパーには、協議会に復帰するかどうか態度をはっきりしてくれとは書かれているが、合併協議会離脱の要因となった『能代市』に代わる名称をもって来いとは書かれていなかった。もちろん、『白神市』を再考するとも書かれていない。

6 町村の首長たちに『白神市』に代わる新市の名称をもってこいと言われて『能代市』を提案したら、二ツ井町の委員から『どこに提案する権利があるのか』と質疑があって、6 町村の首長たちは、各委員に“代わる新市の名称をもってこい、”と行って、持ってこさせることにしていた説明を、していなかったことがわかっている。上にも下にも「能代」がくっついている代替案は認めないと 6 首長たちが言っている。「それなのに、また『能代山本市』を 6 町村長に提案して、また、同じことになるのではないかと、訊ねると市長は、相手方が「能代山本市」を否定されればそれはそれでよしという。

7 市町村合併に対する積極的姿勢とは言いがたく、むしろ、7 市町村の大同合併は望んでいないかのようだと、市長と懇談した一部議員の一致した意見だった。

一夜明けて「えっ、今度は『能代山本市』なの？ どうして？」
一月前、「能代市」を提案して翳り落ちた豊沢票を少し挽回したかのようにあった市民のこえが、あきれ返ってしまっている。

これまで、どうも豊沢能代市長は、好き勝手言い過ぎた。豊沢さんを好きだった人々も、さすがに裏切られる思いでいるに違いない。

おそらく豊沢市長は、またまた、変わるだろう。

「信頼」の賞味期限 2005/1/18（火）

合併協議会から離脱表明している能代市が、逆に、復帰するかどうか 21 日までに回答しなければならない羽目になってしまった。

2 日間の市長と各町村の首長会談の「信頼関係の構築が必要」など等の見出しにある報道内容を改めて目を通して読んだ。「ふー」ため息が、でた。

7 市町村の意地のはりどきを客観的に見ると、お互いに「信頼」の賞味期限が切れていた。

女性農業委員と参画社会 2005/1/17（月）

私は、今日、平成 16 年度秋田県女性農業委員協議会交流会に出席のため、朝 8 時 30 分のバスで秋田に向かった。午前 10 時 30 分から午後 3 時までの長丁場だった。



農業経営の中核的役割を担う女性の農業委員の確保・登用について論議した。

平成 16 年 10 月現在で県内 1179 人の農業委員は、合併等で 40%削減の 710 人程度になると言う。県内には 60 名の仲間がいるが、69 市町村中 29 市町村に女性農業委員がいない現状でもある。

男女共同参画形成は、ただ単に女性の登用率としてではなく、地域農業の振興の重要な担い手として、ここから始まらなければならないと思った。

それにしても、夫の規模拡大とともに増える多額な農業借金に、家族協定を結んで、妻

が経営の実態がわかったと、プラス思考で取り組んでいる姿は、健気であると感じ入った。

私は、購入した肥料、農業機械や器具の返済に振り回されて、苦しかった時代を思い出していた。

かじとり、たどり、あともどり 2005/1/16（日）

「協議離婚してください」と、一度は言ってみただけなのか。それとも、相手にプレッシャーをかける意味だったのか。14日、一転して市長は、6町村との妥協点を探りたいとの考えを議会に示した。土壇場で離婚されるのは、私の本意にあらうと言っているようなものだ。

市長発言のペーパーを改めて読み、これで何をどうするか具体的には伝わってこなかった。「うームッ」と、唸る声が上がって、ますます合併が遠くなったと嘆くものもいた。

「まず、行っといで！」そんな雰囲気ですら異論も出さずに議会は市長を送り出した格好だ。

もとより、能代市議会は市町村合併を否定して議論をしてきたわけではなかった。新市の名称に「能代市」を主張して合併協議会離脱表明を決意した豊沢市長の“とり決め”に、「白神市」で合併すべしと市長に矢を打った2議員と、経緯を踏まえ賛否の判断を留保する旨発言して議場を一時退席する1議員と、それを横目で見て態度表明もなくあわてて退席して試合放棄する泡沫1固体がいる中で、議会が市長提案に同調したものである。

「自ら動ける状況にない」と合併に未練を残しながらも慎重な態度を取っていた市長は、土曜日、日曜日、6町村長と個別会談した。

私は、市長の一番大事なときに決められない思考停止状態に“とり乱され”て、何がどうなって、自ら動ける状態になったのか、“とりまとめ”で聞くことさえできなかったが、市長は、話せばわかると思って訪ねて行ってみると、みんな敵だったと、“とり違え”に気づき、岐路に着いたのではなかったかしらと心配している。

案の定、「能代市が、はっきりしてくれ！」と、逆球が返されてきたようだ。ぶれる市長の足元を見て6町村の首長がまたしても1対6の構図をぶり返してきたなど、感じた。

市長の舵取りは、辿りつく、いつも後戻りしている。

そうだ。今年の干支は、とりだ。かじとり、たどり、あともどり。筋金が入ってない豊沢市長の風見鶏にだけはなりたくない。

♪ じゃんけん ポイポイ どっち引くの？ 2005/1/13（木）

能代市が、合併協議会から離脱を表明して1ヶ月が過ぎた。6町村がそれぞれ地域に住む住民に能代離脱を批判込めて説明している。それだけでいいのかな？

まもなくして、知事が「7市町村で合併できないか」と、仲介役を買って出てきた。

そして、「6町村の首長が、新市の名称『白神市』を、再考してもいいと、言っているから」と、伝えてきた。

私は、「新市の名称だけが離脱の理由ではなかった。さまざまな議論の中で1市対6町村の構図が不信感を招いたことも要因にある」と、言った。市長が頷き、出席した議員たちから“そうだ、”とサインが送られてきた。ただし、議会や議員を批判することが唯一生甲斐となっている遠心分離機からはじき出された泡沫1固体を除いて。

「過去のことにこだわらないで、合併してください」と、言われても、ING進行形の事態である。うやむやにして胸につかかったままテーブルについても、また、繰り返されることが目に見えていた。

寺田知事の要請とはいえ、豊沢市長には、軽々しく「はい、そうですか。そうします。」とは、言えない事情がある。

6町村長と捨てた約束の新市の名称「冠」に、『能代市』と主張して合併協議会離脱を表明した責任があるからだ。

こうして、知事の仲介は、「市と、町村の間に信頼関係が備わっていない」と指摘されて、不調に終わった。

合併協議会に投げたボールは宙に浮いたまま、さらにややこしいゲームになって、始まった。

♪ じゃんけん ポイポイ どっち引くの
こっち引くの
あいこで ポイポイ どっち引くの
こっち引くの ♪

リズムカルに体一杯張ってくる孫に、ついつい、婆は負けている。ただただ かわゆくて。

2005年の新しい年 2005/1/5（水）

酉の年。私は再び生まれた干支にかえる“華甲、”を迎えた格好である。

「私だからできることがある」と、誠実に、謙虚に、熱心に、世の中に大きな仕事をやらせてもらっている。

また、ことしは「平成の大合併」が大きく動き出し、見慣れた地図が変わろうとしていた。能代市の市町村合併協議会離脱のツケが、残された6町村から津波のように押し寄せる。

市長が念頭の記者会見で、手胡坐を搔いてブレた発言を繰り返している場合ではない。能代をどこへもって行こうとしているのか。羅針盤が見えない。

年の暮れに思うこと 2004/12/31（金）

大晦日の夜。浅内の“ナゴメ、”が家にあがった。



あまりの怖さに、泣き出した孫は、お母さんにつれられて隠れてしまった。

ツエちゃんは浅内の大婆（最高齢）だ。「ばばあ

まめでらがあー 長生きせいやあ！」こうして、今年一年の厄を払った。そして「ウオー」と行く年を告げたのである。

まもなく今年も終わりを告げる。2004 年を振り返ってみれば、悲惨な子供の殺人事件があり、相次ぐ大きな台風の上陸と新潟県中越地方やインドネシアのスマトラ島沖で起きた地震と津波等の天災に、人的に物的に甚大な被害に遭遇した。

また私たちは、11 年間続いた旧能代産廃センターの公害問題に関わる 2 件の裁判を和解し、秋田県は環境省に対して同センターに関する特定支障除去等事業施計画書を提出した。ゴミの全面撤去より問題の解決がないと主張する住民は、他県にみる不法投棄と秋田県の許可業者である現場の違いによる環境対策に涙を呑んだ。

しかし、特別措置法の適用を目指し、16 年度から 9 年間の汚染地下水の回収・処理や遮水壁による汚染拡散防止対策など事業計画を検討し、完成したものである。だが、これで疑惑は氷解され問題が解決したわけではない。地下水汚染や下流の溜池では魚のへい死が続くなど、決して不安が取り除かれたものではなく、これからが本当に息の長い戦いの始まりである。



加えて私たちは、能代山本合併協議会(藤里町を除く七市町村)崩壊に如実に現れた如く、豊沢有兄能代市長の理念なし、思いつき政策、突出発言、無責任な掴みよりのないパフォーマンスに振り回された一年でもあった。

市民の心の真意を反映していないで、頭で考えた理屈ばかり。離脱イコール解散にはなっていない。が、解決には問題が整理されていない。

一方、新市の名称問題だけで能代が批判されているが、私は、豊沢能代市長の自らかってでたリーダーとしての資質もさることながら、この合併会議における周辺町村が、52 枚のカードをきるのがあまりにも強行で、能代が離脱に追い込まれたのではないかという疑念をも持っている。

狭小な地域主義の思惑を捨て、合併する地域全体の将来を考えた積極的視点に立った議論がほしかったのである。

弛緩した雰囲気が続く今年の豊沢市長に対する支持率の動向は、ますます厳しく目が離せない。「内憂外患」をはらみ、厳しい市政運営が続きそうだ。

人それぞれに胸に去来することあり、「災い転じて福となす」ただ祈るばかりである。

能代市がリーダーシップを発揮できぬまま、またもや解散という事態を迎えることのないように。